

◇平成 29 年 都市環境委員会（ 6 月 15 日）

**【1 問目】**

おはようございます。

議案第 59 号ですけれども、昨年度ですか、高槻市水害・土砂災害ハザードマップの作成が完了したということで、今回、調査審議に関する事務が終了した。そこで、検討委員会を廃止するという内容だと思っておりますけれども、改定されたハザードマップ、今、ホームページにアップされています。私も一定、目を通させていただきましたけれども、それなりに評価をさせていただいているところですが、平成 23 年、東日本大震災、未曾有の震災が発生して、その年の 9 月に、私も、その状況を踏まえて一般質問をさせていただきましたけれども、当時のハザードマップは市一本という感じでありましたもので、やはり地域ごとに環境も違うし状況も違うだろうということで、地域ごとのハザードマップを作成したらどうかということをご提案させていただきました。

そういったことも、今回、盛り込まれているようで、そういう意味でも評価をさせていただきたいところですが、これが 6 月末ぐらいから 7 月にかけて、全戸に行き渡るといふふうに聞いています。

それが手元に届くわけですが、それで完了ではないと思うんですね。これの活用方法というか、市民の方にどう活用していただくのかということが、これから重要になってくると思うんですが、その辺のところはどのようにお考えなのかをお聞きしたいと思います。

**【1 問目答弁】**

高槻市水害・土砂災害ハザードマップについて、お答えいたします。

本市といたしましても、委員仰せのとおり、ハザードマップは配布するだけでなく、市民がこのハザードマップを活用して、水害や土砂災害を自分自身のリスクとして実感していただき、有事の際に円滑な避難行動をとっていただくことが何より重要と考えております。

そのため、当該ハザードマップにつきましては、広報誌やホームページへの掲載はもとより、広く住民の皆様に活用していただくためにも、地区防災会や自主防災組織とも連携し、積極的に出前講座や説明会を行い、このハザードマップが市民の生命、財産を守るための一助となるよう取り組んでまいります。

以上でございます。

**【2 問目】**

この未曾有の震災が起こってからといいますか、防災意識というのは、いろんな意味で高まってきているのは事実だと思うんですが、それまでに高槻市が発行していた、

防災ハンドブックというのがあったというふうに記憶しています。

当初、それも取り上げさせていただいて、全戸にそれも配布されましたから、その後、どのように使われているのかということ考えたときには、やはり家庭で眠ってしまっているというか、そういうのが実態であったというふうに記憶しています。

また、そのときに提案をさせていただいた後、防災ノートというのを高槻市が発行しました。はにたんが前面に出た黄色い冊子ですけれども、ご記憶にあらうかと思いますが、当初はできたところですから、皆さん、市としても担当課としても、それなりのアピール、周知をしてきたと思うんですけども、結局、それもどうなのかなというふうに感じています。

そういう意味では、これは先ほども申しましたけれども、配布することが目的ではありませんので、それを本当にどう活用していくか。この30年以内ですか、60から70%の確率で発生するであろうという南海トラフ地震のことを考えれば、確率は非常に高いということになりますので、やはりそのときにこれが本当に生きて、つくってよかったなというか、そういうふうになることを望みます。

私も家には、災害用のこういう袋が、高槻で出しているやつがありますけれども、それに非常用のやつを入れて保管していますけれども、この中にどれだけそういうことをやっていらっしゃる方がいるかなというふうに思ったりするんですが。

それと、意識づけというのがやっぱり大事になってくると思うので、当初も申しましたけれども、それぞれの家庭で、マイマップシールというのを今回添付されるようですけども、これで家族で話し合っつと、そういったものだというふうにお聞きしましたが、そういう意識づけのためには、「高槻市家族防災デー」みたいなものを、この日は必ずみんなで、家族で話し合うんだよというような日を設けてはいかががかなというふうに思っています。これは要望しておきます。

それから、きのうの夕刊にもありましたけれども、きょう、国土交通省近畿地方整備局が発表した、淀川が大雨で氾濫というか増水したときの想定が、各紙に載っておりました。そんな中で、千年に一度級の豪雨が降った場合、高槻市は浸水面積21.2平方キロメートルと、これは大阪市に次いで浸水する面積が広いというデータでした。

また、浸水の深さは、木津川市の9メートルに次いで8メートルというような、こういった数字が上がっていましたがけれども、先ほど紹介した高槻市の今回のハザードマップの95ページ、96ページに淀川が浸水した場合というのが載っているんですね。これが、5メートル以上浸水するというふうなことでいけば、8メートルとかいうのよりも整合性があるのかもしれないけれども、きょう発表されたこのデータと、高槻市が今回つくったハザードマップに整合性があるのか。全く違うデータを使って、ひょっとしてやっていたら、これは意味がありませんので、そういったふうなことに対しての見解をお聞かせいただきたいと思います。

## 【2 問目答弁】

今回、改定された淀川の浸水想定区域は、想定雨量が、2日間の総雨量が500ミリから24時間で360ミリの降雨など、前提条件を見直されて改定をされております。

今般、配布する本市のハザードマップにつきましては、本年3月に作成したもので、反映はされておりませんが、淀川の場合については、既に未曾有の降雨を想定されており、現行とほぼ同規模であり、浸水想定区域は大きく変わってございません。

以上でございます。

## 【3 問目】

ある意味では安心しましたというか、全く違うと、何を信じていいのかわかりませんので、そういう意味では、これはしっかりしたものができているということになるかと思えます。

いずれにしても、高槻市だけで捉えれば、市民一人一人が意識を持って、いざというときの備えと、また、行動をしっかり理解できるようにというか、学んでいけるような今後の対応をお願いして、質問を終わりたいと思います。

以上です。